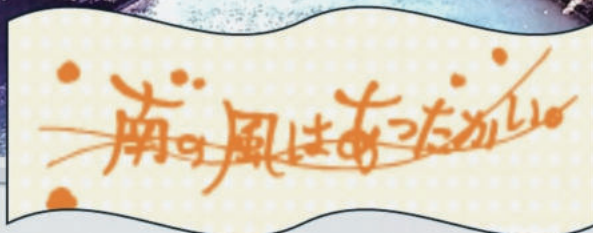


ケアマネ通信



第21号
2024
Aug.

横浜市南区介護支援専門員連絡会

「南の風はあったかい」これが横浜市南区のキャッチフレーズです。

南区は横浜市18区の中では西区に次いで面積が小さく、人口密度は市内トップ！周囲は5区に隣接し「南区七つの丘」と呼ばれる高台に囲まれた区でもあります。小さな区ですが下町色の強い地域もあれば大きな団地もあり、戸建ての立ち並ぶ住宅街もありで、地域のカラーは住む人のカラーとなるため、ニーズもおのずと異なってくるのでケアマネには対応力と地域を知る力が求められます。2023年には3人に1人が60歳以上となったほど高齢化率の高い地域だけに、電動自転車で東奔西走するのが日常です。

「あったかネット南」では会長を置かず運営委員12名が会を担い、年に6回程度（うち2回は区役所との共催）の研修を行っています。また、多職種との共催研修も年に1度は行い、地域ぐるみの連絡会であることを目指しています。会員の皆様の興味を惹く研修を行うため講師の選定はいつも悩みどころですが、これからも「あったかい風」の吹く南区の一助となるよう努めていきます。

横浜市南区介護支援専門員連絡会「あったかネット南」 信田 和子

目次

能登地震の体験中談～被災地での相談援助職の実際～	2	ケアマネリレーコラム	7
委員会紹介（主任介護支援専門員研修部会）	5	編集後記	7
ケアプランデータ連携システムをもう一度考えてみる	6	インフォメーション	8

能登地震の体験中談

～被災地での相談援助職の実際～

金沢市地域包括支援センターとびうめ センター長 中 恵美

【はじめに】

この度の能登地震において、みなさまにお力をいただきましたこと、はじめにお礼を申し上げます。いち早くお金や物資を送付くださった方ももちろんですが、なにより、たくさんの言葉や気持ち、関心をお寄せいただいたことが、どれだけ私たちの力になったことか、感謝してもしきれません。本稿にて、災害を前にして実感したことを、私なりに言語化することが、少しばかりのご恩返しの機会となれば幸いです。

【能登地震の体験中談 ～相談援助職として実感～】

私は、地域包括支援センターの社会福祉士・主任介護支援専門員として勤務。所属団体は、介護支援専門員協会、社会福祉士会他です。この体験談は、本業と職業団体の両側面からのものとなります。

1. ものごとには「おもて」と「うら」があるらしい

能登地震のおもて

令和6年1月1日 16:10
マグニチュード7.6（最大）
震度7：輪島市、志賀町
震度6強：七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
震度6弱：中能登町
震度5強：金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町

見えている面（＝報道）をおもてとするならば、
見えにくい面はうら震災を両面でとらえる必要を実感した。



NHKニュース 2024年2月4日 18時59分

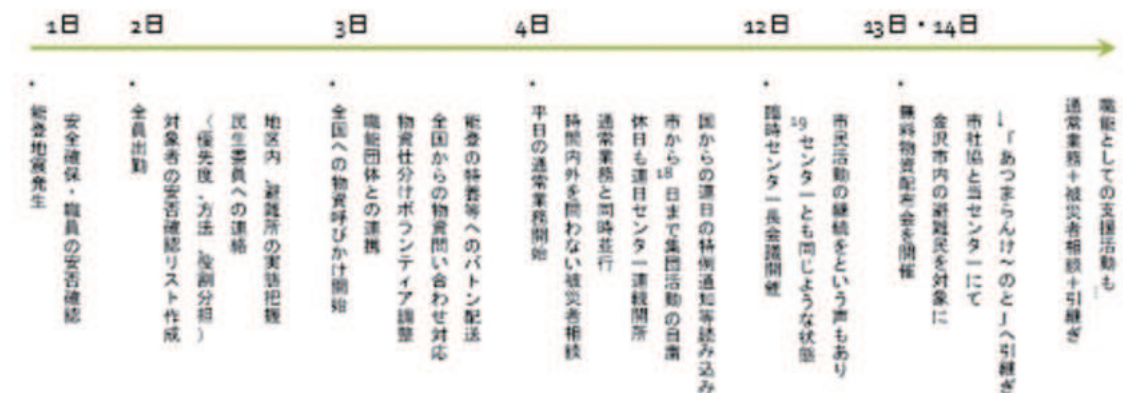
「見えない被災地」と評された金沢市等 コロナ禍以上の病床使用率、感染症の拡大、各々の施設がオーバーベッド状態、

震災時に実感したことのひとつは、報道はすべてではないという点です。見えている面（＝報道されている情報）を表とするならば、裏となる見えにくい面が存在しているということです。例えば、私の職場のある金沢市は、直接的な死傷者も少なく、奥能登の支援地としての役割を期待されていました。一方で、能登からの避難者の受け入れが殺到し、コロナ禍以上の病床使用率からの医療崩壊が起きていました。介護施設も同様です。避難所への職員派遣の傍ら、国や県からの要請を受け、オーバーベッドで廊下にパーテーションを張り、市内の施設での受け入れに奔走していました。県庁所在地であることから1.5次避難所の運営にかかわり、私自身も元旦からはじめて仕事を休めたのは、1月後半に自身が新型コロナウイルスに罹患したためでした。県外からの支援者に「見えない被災地だね」と指摘されたときに、見えない私たちの状況を、それでもだれか見てくれる人がいることに救われた気持ちになったことを思い出します。

2. 今あるつながり、システムのなかで、自分がまず動き始める

地震発生直後から、約半月の当センターの動きを時系列で表した表です。通常業務での被災者支援と、全国からの物資の受け入れと地元ボランティアの組織化という活動を両面で組み合わせての活動でした。今あるつながり、システムの中で、自分がまず動くことからはじめました。なにもしないよりも意味があるのではという思いでした。

能登地震直後からのセンターの動き（振り返り）



1月3日からはじめた全国からの物資活動は、当初は、介護支援専門員や社会福祉士の個人、有志の仲間たちで通常業務のあいまにはじめました。個人、有志、民間として動くことのメリットは、機動性が高いところです。すぐ動ける、小回りが利く、ネットワークで個別のニーズに届きやすい、呼びかけやすいという特性は、有事の混乱時には必要な動きでした。しかし、デメリットとして、個人で動ける活動や範囲には限界がある（団体でないと受付ができない窓口も多い）も出てきました。

そこで、しかるべきタイミングで、組織や職能、行政の活動として位置づけ、バトンを渡していくことで、安定した継続的な運用が可能となります。また、社会的信用の担保されることにもつながります。大きな組織や団体としての意思決定には、ある程度時間や労力を要するため、いら立ちが募りやすいものですが、長い目で見て、安易にけんか別れせずに、粘り強く連携していくことが大事だと実感しました。

現在、この物資活動は、社会福祉士会と社会福祉協議会として事業化につながっています。物資のみならず、カフェでの居場所づくり、相談機能も充実し、現在は8月までの延長が決定しています。毎日100世帯を超える被災者の来場があり、まだまだニーズがあるようです。

2024.1 物資活動 ボランティア受入



あつまらんけーのと 毎日100世帯超 ～8月まで延長



【おわりに ～災害時におけるケアマネジャーの存在意義～】

災害は人命だけではなく、人々から様々なものを奪います。大切にしていた家や土地、地域のつながり、毎日のしごと、習慣や文化など。なぜこんなことに、なぜ自分がと、喪失感や無力さに打ちひしがれて、動けない利用者や家族がいます。にもかかわらず、時限の制度や資源は、そんな過酷な状況下でも意思決定を急いで迫ります。

個別事例のご紹介は控えさせていただきますが、そんなときに、寄り添ってくれるケアマネジャーの存在意義を改めて実感したことは確かです。人とつながりながら、人のつながりを創出していくケアマネジャーの仕事にどうぞ誇りをもって取り組んでください。感謝。

委員会紹介

主任介護支援専門員研修部会 部会長 今田 義昭

皆様こんにちは、主任介護支援専門員研修部会の今田です。

主任介護支援専門員研修部会は、神奈川県介護支援専門員協会が研修を受託した平成21年からほぼ毎月開催してきた歴史の長い研修部会の一つです。

令和2年から感染拡大したコロナウイルスの際に、研修自体は一時中断しましたが、再開することや研修形態をオンライン化することで継続実施して参りました。その後もオンラインでの研修を構築し、協会が作成したガイドラインに則って会場での研修も実施しています。これも皆様のご理解ご協力と、協会内にある様々な委員会や研修部会のメンバーの協力があって前に進んできたことであると感謝しています。

さて、研修内容についてですが、今年度からガイドラインの変更があり、現在研修内容を見直し、新たな演習内容を構築しています。講義部分については、国が出しているものを使用しますが、その他演習の中で使用する講義資料・演習課題・ワークシートなど、教科ごとに担当者を決めており、4月からは担当者チームごとに活動しています。また、作成した資料等は毎月の研修部会でプレゼンし、他チームの部会員からの意見や提案も参考としながら作り込んでおります。

特に、演習が中心となる「医療連携」「対人援助者監督指導」「個別事例」「地域援助技術」の4つに関しては、各チーム4人から5人で担当しております。

研修日程は12日間と日数も長く、受講者の皆さんの負担も大きいと思いますが、充実した内容での研修構築を目指しておりますので、体調管理をしっかりとって受講頂きたいと部会員一同願っております。また、オンラインコースの方をお願いなのですが、受講環境やオンラインで使用するパソコン機材などは事前に試して頂き、問題なく受講できるようご準備をお願いします。パソコンが古いもの、容量の小さいものでは最後まで受講できない方もいらっしゃるかもしれません。苦手な方やオンライン講義を受けたことが無い方、経験が少ない方は是非身近にいる詳しい方に相談しておくことをお勧めします。

それでは今年も多くの皆様と会場やオンライン上でお会いできることを部会員一同、今から楽しみにしております。どうぞよろしくお願いします。

ケアプランデータ連携システムを もう一度考えてみる



令和6年度の介護保険報酬改定にて、居宅介護支援費の算定において、事務員の配置に加え『ケアプランデータ連携システム』を導入していることで、介護報酬が減じられずに介護支援専門員の担当できる人数が増加しました。

この『ケアプランデータ連携システム』は「介護人材の確保が喫緊の課題とされる中で、介護現場の負担軽減や職場環境の改善のための取組の一つであり、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所の間で毎月やり取りされるケアプランのうち、サービス提供票（予定・実績）をデータ連携することで、介護事業所の文書作成に要する負担が大幅に軽減されることが期待できる」とされ、令和5年4月より運用が開始されました。令和6年4月3日時点で神奈川県での導入は、通所介護や訪問介護等を含めた全サービスで525箇所の事業所です。（神奈川県は居宅介護支援事業所だけでも2,100箇所以上ありますが…）

データ連携にはケアマネジャー側・サービス事業所側の双方がシステムを導入している必要があるため「周りが導入したら考える」や「他所が使っていないと自分達だけコストが掛かり損するのでは」という声が聞かれます。

しかし、深刻化しているケアマネジャー不足の現状で、先々はこのような業務を効率化するシステムが必要になるのではと感じます。世の中ではデジタルへの変化が、いつの間にか定着していることは多くありますが、「便利さ」への気付きが得られるかが重要なのだと思います。

例えばひと昔前、家で映画を観ようとする→①レンタルビデオ店に行く→②店内を歩いて観たいタイトルを探す→③家に帰って視聴する→④レンタルビデオ店に返却するという流れでした。現在は①テレビで動画配信サービスより観たいタイトルを探す→②そのまま視聴という流れが増えています。

サービス提供票のやり取りも、①サービス提供票を郵送やFAXで送り合う→②サービス実績を1枚ずつ紙で確認→③パソコンに1人分ずつ入力という作業です。データ連携システムでは、①データの取り込み→②確認という手間で終わりますね。

ケアプランデータ連携システムに留まらず、システムの便利さに多くの人が気づき広まっていくには、デジタルの逆で顔の見える関係からの「ロコミ」が鍵なのではないかと思います。「便利そうだからやってみない？」「うちも始めたからどう？」こんな一言から地域全体がもっと便利に連携しやすくなるかもしれませんね！

広報出版委員（S）

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～

ケアマネリレーコラム

横山地域包括支援センター 杉田 久美子

地域包括支援センター（以下地域包括という）に勤務して15年が立ちます。振りかえると、地域包括で過ごした日々は私にとって、とても楽しい毎日で、介護支援専門員や医療福祉従事者（以下従事者という）、そして、いつも私たち包括を応援くださる地域の皆様に感謝しています。

その中で、私が一番印象に残っている地域包括の活動をお話します。

私たちの地域には従事者専用「横山 Kizuna パーキング」が設置されています。

その設置は、地域の方々と、従事者の多職種が繋がり、気軽に相談できる優しさといった皆さんの心が繋がってきたものです。

誰もが苦しかったあのコロナ禍の事です…住民から「介護支援専門員や医療・福祉従事者はこの状況の中でも、地域の高齢者や障害の方々の支援姿勢は変わらない。私たちは、従事者に頼るばかりではなく、自分達にできる事を考えたい」と、そんな地域住民の声から、私たち地域包括が主催する「地域ケア会議」でお互いの意見交換の場として「介護支援専門員・福祉従事者と地域住民の会」を開催しました。

そこで、従事者から上がった困り事に、「訪問時に車を停める駐車場が不足している」があり、その意見を地域住民が受け止め、地域全体に「空いている駐車場を貸してください」と発信、各自治会や個人宅から沢山の情報提供を頂く事ができています。

「横山 Kizuna パーキング」設置は少しずつ増え、現在70か所の設置ができています。

そして、それぞれの皆さまの繋がりは私たちの包括業務の良きパートナーでもあります。

例えば、支援困難ケースや緊急時の対応でも、多職種がお互いの立場で役割を果たす体制が作られています。その繋がりは地域の住民も同様で、思いやりの連鎖が生まれています。

これは今まで、地域と従事者と地域包括で取り組んできた「地域包括ケアシステム」構築への努力が大きな成果になっていると思います。

私たち地域包括は、これからも地域の皆様と従事者の皆様に繋ぎながら、誰もが「Happy」になる、そんな地域を目指していきたいと考えています。

編集後記

令和6年4月より、全ての介護サービス事業者にBCPの策定及び研修・訓練の実施が完全に義務付けられましたが、皆さまの事業所ではどのような訓練を実施されていますか？

先日、私が所属する事業所では、災害時に職員同士が適切に連絡をとれるか確認する訓練を行いました。具体的には実際の災害を想定し、その時間になったら作成したアクションカードをもとにグループLINE、そして災害用伝言ダイヤル（171）への連絡を行ってみました。伝える内容は、

①自身がいる地域・場所 ②自身・利用者の安否・健康状態 ③周囲の状況 ④事業所に戻れるかどうか ⑤戻れない場合の避難場所等です。

実際にやってみると思ったよりも時間がかかり、慣れるためには定期的に訓練を行う必要があると感じました。今回使用した災害用伝言ダイヤル（171）は、毎月1日、15日に体験利用ができます。ぜひこの機会に、訓練の一つとして実施されてみてはいかがでしょうか。

広報出版委員（M.K）

■令和6年能登半島地震支援募金のお礼

本会では能登半島地震に関しまして、私たちにできる被災地・被災者支援として、1月初めから3月末まで研修会等において、募金箱の設置及び本会口座へ募金を受付いたしました。

3月27日に、本会災害支援委員会の小薮委員長が、日本赤十字社神奈川県支部へ「令和6年能登半島地震災害義援金」として、皆様からお預かりした募金145,871円を寄付してまいりました。

また本会から、義援金100,000円を石川県介護支援専門員協会へ、寄付をさせていただきました。

募金活動にご協力いただいた皆様に、心からの感謝を申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

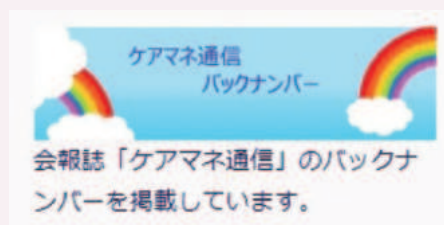
一般社団法人 神奈川県介護支援専門員協会
理事長 諏訪部 弘之

■ケアマネ通信 アンケートご協力をお願い

今後のケアマネ通信がより良いものになるよう、アンケートを実施しております。

当協会ホームページ「ケアマネの森」トップページ「ケアマネ通信バックナンバー」より、アンケート（Google フォーム）にご協力ください。

<https://www.care-manager.or.jp/iinkai/kouho.html>
お手持ちのスマートフォンからも、ご回答いただけます。
会員の皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしています。



■メールアドレス登録のお願い

会員の皆様へ、当協会主催研修等の情報をメールでご案内しています。

メールアドレスの登録がお済みでない方は、当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「メールアドレスご登録のお願い」より、ご登録をお願い致します。

メールアドレスを変更したい方も、こちらから変更をおこなってください。



◎編集 / 発行
一般社団法人
神奈川県介護支援専門員協会
広報・出版委員長 佐藤 明



Facebook
はこちら↑



ホームページ
ユーザーはこちら↑

Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局
〒231-0023
横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル 9 階
TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287
E-mail jimu@care-manager.or.jp
H P <https://www.care-manager.or.jp/>